

グアテマラを通して世界を知る

AKB Future Project 推進委員会

SGH講演・ワークショップ②

- 実施日 平成30年7月13日（金）
13:30~15:20
- 生徒 4回生
- 講師 青年海外協力隊OB 小越 剛 氏
- 演題 グアテマラの事情を通して見える世界

グアテマラはどこにある？

グアテマラには手つかずの自然があります。22の言語があり、いろいろな文化が混ざり合った国です。小越さんは、私たちに中米の国グアテマラについて語ってくれました。

最初は、グアテマラを取り巻く事情についてです。グアテマラではアメリカのカジュアルブランドの古着を着ている人が多いのはなぜなのでしょう。それは、北アメリカから中米への物資の輸送が簡単に行われるため、たくさんの古着が安い値段で売られているからです。しかし、一方で、中米から北アメリカへ物資を運ぶことは、メキシコ、アメリカ合衆国と、2つの壁があるため容易ではないそうです。グアテマラは赤道に近いが、高地にあるため夏でも比較的涼しいそうです。小越さんの住んでいた町は標高2650m、35000人の町、冬は寒く薪ストーブが使われていました。食事は、毎日同じメニューが並び、肉が中心で野菜は少なかったそうです。

グアテマラの人種は、白人系（ヨーロッパからの移民）とマヤ系の人たちがいて、服装や収入も違うということでした。

グアテマラのゴミ問題

小越さんが派遣された目的は、グアテマラのゴミ事情を改善することでした。ゴミはゴミ箱に捨てる、資源はリサイクルするなど、日本や欧米など先進国では当たり前のことが、グアテマラではそうではありませんでした。人間が本来送って



た、自給自足生活では、ゴミは全て自然に還ります。プラスチックや紙、金属など、文明の発達とともに発明されてきた物質は、自然に還らない、もしくは、分解されるまでに非常に年月がかかるものです。ですから、そのまま捨てるのではなく、人工的に処理することが必要になります。グアテマラに限らず、世界には、そのようなことが理解されていない国がまだまだたくさんあります。

ゴミだらけの町、ゴミ箱を設置しても盗まれてしまう町を何とかしようと、小越さんは、様々な実践を重ねました。ゴミをポイ捨てする習慣をなくすために、学校での環境教育を実施しました。週3回のゴミの収集だけではなく、学校での分別収集をし、生徒たちが家からペットボトルを持ってきました。小越さんは、ペットボトルを資源だと、子供たちがわかってくれたことが、とてもうれしかったそうです。

☆

後半は、グループでグアテマラのゴミ問題を解決するためのアイデアを考えました。傾斜を生かしてベルトコンベアを道路の端に設置してゴミを集める、ゴミをマグマに捨てにいくなど突飛的なアイデアから、子供たちへの教育に遊びの要素を加える、大人を教育することや、法的な整備をするなど、様々なアイデアがありました。幾つかの意見は、実際に使えるのではないかと、小越さんが直接関係機関に伝えるとのことでした。

<生徒の感想>

- ・自分の国は、自分自身の生活はどうか、改めて考える必要がありました。
- ・人のためになる仕事をするという夢に少しでも近づけるように、身近でできるボランティア活動などに積極的に参加していきたい。
- ・問題を解決する難しさやメディアの力の大きさを学ぶことができました。
- ・グアテマラの一つの問題を知ること、異なる視点から考えることを学びました。
- ・世界的な問題だからこそ、世界で協力し合えるし、改善できる希望があると思いました。